

# 世界宣教の足跡

## ウォルター・R・ランバスの

W.R.ランバスは、今日に比べると、はるかに交通事情が不便な時代であって、まさに福音宣教のために世界中を駆けめぐったと言える。この世界地図は、その宣教の足跡を辿ったものである。

W.R.ランバスが生まれたのは、両親の宣教師としての任地中国であったが、教育は母国アメリカで受けた。アメリカ国内では、ランバス一家の母教会であるミシシッピ州のパールリバー・チャーチやW.R.ランバスが副牧師として初めて任命されたテネシー州のウッドバイン教会の他、ニューヨークやヴァージニア州等

にその足跡を辿ることができる。晩年には、住居をテネシー州からカリフォルニア州に移した。

アジアでは、W.R.ランバスにとって最初の医療伝道の地であった中国において、蘇州病院と首都医院(北京)を開設している。そして、日本においては、わずか4年の滞在であったにもかかわらず、関西学院創立等大きな足跡を残した。晩年に南メソヂスト監督教会の東洋伝道担当監督となってからは、中国東北部(旧満州)、シベリヤにまで足を伸ばした。

若い頃エディンバラとロンドンで医学の研鑽を積んだこともあ

るヨーロッパにおいては、1910年にエディンバラで開催された世界宣教会議での働きが高く評価されている。第一次世界大戦中は、世界YMCA運動や赤十字を支援し、戦争末期にはパリに滞在した。中南米では、キューバにおけるキリスト教覚醒運動、ブラジル伝道、メキシコ伝道に功績を残した。

さらに、少年の頃からの夢であったアフリカ伝道にも着手し、中央アフリカにメソヂストの宣教拠点を開設した。

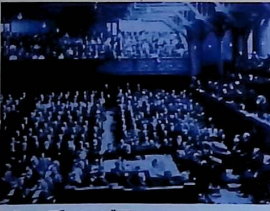
※W.R.ランバスの働きは、宣教師として、教会の指導者として、幅広い視野を持つものであったが、歴史的制約を受けていた。



**●ウッドバイン教会**  
W.R.ランバスが副牧師として初めて任命を受けたテネシー州ナッシュビル近郊にある教会。当時、ランバスはヴァンダビルト大学で神学と医学を学んでいた。教会のステンドグラスには「BISHOP WALTER R. LAMBUTH」とはめ込まれている。



**●パールリバー・チャーチ**  
ミシシッピ州ジャクソン近郊にあるランバス一家の母教会。教会としての役割を終えた現在は史跡となっているが、毎年10月第一木曜日にはランバス・デーとして、地域の人びとが集い、ランバス一家の功績を偲ぶ礼拝が持たれている。



**●エディンバラ**  
1910年にエディンバラで開催された世界宣教会議は、長年分裂を重ねてきた教会の歴史に終止符を打つ歴史的にも意義深い会議であった。南メソヂスト監督教会の監督に就任したばかりのW.R.ランバスは、このエディンバラ会議に参加し、第二部門において副議長を務めて貢献している。



**●ランバス記念病院**  
W.R.ランバスの伝道地ウエンボ・ニヤマ(コンゴ民主共和国)には、彼の功績を記念してランバス記念病院が建てられている。メソヂスト教会経営の同病院は、看護学校を併設した地域最大の医療センターである。



**●首都医院**  
1884年、子どもたちの健康上の理由により、W.R.ランバスは蘇州を去り、北京に移る。北京ではメソヂスト監督教会の仕事を従事したが、中国初のYMCAを設立する他、現在首都医院として知られる病院(別名:ロックフェラー病院)を開設している。



**●蘇州病院**  
1882年に親友W.H.バークと共に開設した蘇州病院は、W.R.ランバスが去った後もバークにより引き継ぎ育てられた。妹ノラはのちにバークの妻となった。この蘇州病院は、現在蘇州大学付属病院となっている。



**●First Session of the Siberia-Manchuria Conference**  
1920年、ウイロン大統領の符命を受けたW.R.ランバスは、中国大陸を北上し、飢饉災害地帯を視察、救援活動に従事した。と同時に、衰えていた当地の宣教活動を立て直し、First Session of the Siberia-Manchuria Conferenceを主宰した。(ランバスは前列中央)



**●関西学院原田の森**  
日本におけるW.R.ランバスの宣教の働きは、1886年に神戸栄光教会を創設したことに始まるが、教育事業として89年に関西学院を神戸の原田の森に創立した。写真(1912年竣工)は、原田の森キャンパスの中でも象徴的な神学館の建物である。



**●カテデ教会**  
南メソヂスト監督教会が、ブラジルのリオデジャネイロに最初に建てた教会で、1882年竣工。W.R.ランバスが、南メソヂスト監督教会の監督として、1911年にこの教会においてブラジル年会を開催した。

# ウォルター・R・ランバスの「瀬戸内伝道圏構想」

日本における宣教師としてのランバスの基本的構想は、「瀬戸内伝道圏構想」とも呼べる壮大なスケールをもつものであり、このジオラマは、そのランバスの構想の輪郭を再現した。

1886(明治19)年、米国南メソヂスト監督教会<sup>注1</sup>から派遣された宣教師として、J.W.ランバスとW.R.ランバスの父子が、前任地である中国から日本の神戸にやってきた。当時の神戸が、いかに宣教の拠点として優れた諸条件を備えているかについて、87年に本国の伝道局に書き送った以下の諸条件こそ、ランバスの「瀬戸内伝道圏構想」の基本的な枠組みであると言える。

「(1)神戸は伝道地として我々に開かれた地域の中心である。メソヂスト監督教会は、神戸から200マイル北(東)までと300マイル南(西)まで、つまり関東以北、東海、北西九州を伝道地としている(南メソヂスト監督教会はこれ以後近畿、中国、四国、東九州を伝道地とするようになった)。(2)やがて全線開通する鉄道路線の中心である(新橋・神戸間の東海道線はその2年後、1889年7月に全線開通した)。(3)日本中で四季を通じて最も健康に適した海港である。(4)交通至便な瀬戸内海を通して主要な地方都市と連絡ができる。(5)神戸は条約港としてアメリカ、イギリス、中国と毎週連絡が取れ、外国人として居住ができ、また日本人に雇われないで伝道の仕事ができる。(6)地形的条件が優れており、大阪、京都という大都会に近く、今後の活動の見通しは明るい。」(『関西学院百年史 通史編』47-48頁より)

このジオラマでは、関西学院が創立された1889(明治22)年当時の鉄道と1884年(明治17)年当時の瀬戸内航路を再現しているが、<sup>注2</sup>このような交通手段を活用して、南メソヂスト監督教会が、どのような広がりでも瀬戸内海沿岸の都市を中心に教会や学校を建設していったかを理解することができるであろう。

ランバス滞在中(1886-90年)に創設された13の教会を赤色の屋根で表示し、ランバス離日後に創設された12の教会を青色の屋根で表示している。



「瀬戸内伝道圏構想」ジオラマ 制作：関西学院大学図書館  
監修：神田健次 関西学院大学神学部教授

注1 米国南メソヂスト監督教会は以下の三つの時期に歴史的に変遷してきている。  
①1886-1907年：「南メソヂスト監督教会(南美以美または南美以教会)」  
②1907-1941年：「日本メソヂスト教会」(メソヂスト監督教会、カナダ・メソヂスト教会、南メソヂスト監督教会三派の合同による)  
③1941年-現在：「日本基督教団」

注2 学校に関しては、現在の位置を表示している。  
・1889年9月1日、山陽鉄道は姫路まで開通した。  
・ジオラマの航路は大坂商船(1884年当時)のものである。

- |            |             |          |   |
|------------|-------------|----------|---|
| 1. 京都御幸町教会 | 11. 広島流川教会  | 21. 中津教会 | A. 聖と大学   |
| 2. 伏見教会    | 12. 岩国教会    | 22. 国東教会 | B. 関西学院   |
| 3. 東梅田教会   | 13. 徳山教会    | 23. 杵築教会 | C. パルモア学院専門学校   |
| 4. 堺清水橋教会  | 14. 防府教会    | 24. 大分教会 | D. 啓明女学院  |
| 5. 御影教会    | 15. 山口信愛教会  | 25. 佐伯教会 | E. 広島女学院  |
| 6. 神戸栄光教会  | 16. 下関丸山教会  |          | F. 売店「ランバス」   |
| 7. 兵庫本通教会  | 17. 多度津教会   |          | W.R.ランバスは広島県原庄で伝道を行っていたが、教会は設立されることなく、現在は国営備北丘陵公園の一角にある売店がランバスの名を残している。 |
| 8. 姫路五軒邸教会 | 18. 松山藩町教会  |          |   |
| 9. 福山東教会   | 19. 八幡浜教会   |          |   |
| 10. 呉平安教会  | 20. 宇和島中町教会 |          |   |